

GMOグローバルサイン・ホールディングス プライベートクラウドと ホスティング利用ユーザー向けに Acronis Backup Cloud

(現在、Acronis Cyber Protect Cloudと名称変更し提供中)

でクラウドバックアップも追加

Acronis Cyber Protect Cloudによって、
バックアップシステムの安定的で確実な運用が実現し、
災害などに対応した遠隔バックアップも可能になります。

GMO CLOUD Private



カスタマイズ満足度 No.1

事業の概要

GMOグローバルサイン・ホールディングス株式会社（以下、GMOグローバルサイン・HD）はGMOインターネットグループでクラウドホスティング、セキュリティ事業などを展開する企業です。インターネット黎明期からの運用・販売実績のもと、2011年にはクラウドサービスに本格的に参入、現在11万件を超える企業のITインフラを支えています。その中で、プライベートクラウド「GMOクラウドPrivate」は、VMware採用の高信頼・高性能のクラウドサービスで、冗長化基盤とVMwareのベストタッグで、高い柔軟性とスケーラビリティを持ち、SLA99.999%を保障しています。加えて、営業担当者・技術者が直接、顧客に対応し、柔軟・迅速に豊富なソリューション提案を行っています。

ビジネス上の課題

GMOグローバルサイン・HDでは、従来からプライベートクラウドとハウジングの顧客向けにバックアップサービスを提供してきました。しかし、従来利用していたバックアップソフトは海外製品で、サポートが終息に向かうことが決まったことから、後継となるバックアップシステムを選ぶことにしました。

その際、重視したのはマルチテナント機能の実装でした。GMOグローバルサイン・HDが提供するバックアップの仕組みで、いつ、どういう形で、どの部分のバックアップを取るかはすべて顧客が決めます。そのため、導入ユーザー自らがバックアップを設定、管理できるようにして、状態が可視化できなければなりません。

GMOグローバルサイン・HDでは複数の製品を比較検討した結果、アクロニスのAcronis Cyber Protect Cloudを導入することにしました。決め手になったのはユーザーインターフェースが使いやすく、ユーザーが簡単に操作できることでした。また海外製品はマニュアルが英語以外にないことも多く、GMOグローバルサイン・HDが日本語版を作る必要があり、新しい機能がリリースされると追従するのが大変です。「アクロニスはローカライゼーションに力を入れているので、日本語版のマニュアルもスピーディに作成してくれると判断しました」とサービス運用部インフラSC SEG 岩下 徹氏は語ります。

業種・業態

クラウド・ホスティングサービス事業者

主な課題

- ・ バックアップソフトのサポート終了への対応
- ・ 分かりやすく、使いやすい操作環境の実現

主な要件

- ・ マルチテナント機能の実装
- ・ ユーザーの操作が簡単なこと

ITインフラ

- ・ VMwareによる仮想環境
- ・ プライベートクラウド、ハウジング環境

主なメリット

- ・ バックアップシステム運用コストの大幅削減
- ・ マイグレーション時のデータ一時バックアップなど用途の拡大
- ・ アクロニスクラウドバックアップによる遠隔バックアップ

GMOグローバルサイン・HD
GlobalSign

ソリューション

2018年12月、Acronis Cyber Protect Cloudによる新しいバックアップシステムが稼働を開始しました。ユーザーはデータに対するセキュリティ意識が高く、個人情報保護を非常に重視している企業が多いのが特徴です。そこで運用にあたっては、GMOグローバルサイン・HDが管理するデータセンター内にストレージを用意して、バックアップデータを格納することにしました。「新規のお客様への提案では、標準でAcronis Cyber Protect Cloudが盛り込まれています。バックアップ取得方法の一つとして、お客様はAcronis Cyber Protect Cloudを使い、データは私たちのデータセンターのストレージにバックアップするようになりました」とサービス運用部 クラウドホスティング開発室 請園 薫氏は説明します。

その後、2020年7月熊本県を中心に発生した集中豪雨で、GMOグローバルサイン・HDのサービスを利用する企業の拠点を被害を受け、オフィスに設置していたサーバーやネットワーク機器などがすべて水没してしまいました。今まで、GMOグローバルサイン・HDの販売パートナーもバックアップはローカルで十分と考えていたため、遠隔バックアップを積極的に勧めてきませんでした。しかし、水害被害でローカルバックアップの危険性を認識、遠隔バックアップを提案に盛り込む必要が出てきました。

それを受けて、GMOグローバルサイン・HDでは2020年後半からバックアップデータのアクロニスが提供するクラウドストレージへの遠隔バックアップを検証、2021年7月からバックアップサービスへ追加しました。サービス追加後、すでにクラウドバックアップを提案しているケースも出てきています。ある高校では校内でサーバーを運用していましたが、BCP対策のためにシステムのクラウド化と併せて、Acronis Cyber Protect Cloudを導入し、クラウドバックアップを利用しようとしています。またSlerやソフトウェア開発会社が利用するGMOクラウドPrivateのIaaS環境のアドオンとして、Acronis Cyber Protect Cloudを利用して、

バックアップデータの格納先としてアクロニスのクラウドストレージを利用するように提案しています。

効果と展望

従来のバックアップシステムは専用のバックアップサーバーを設置して、バックアップを取っていました。そのため、バックアップサーバーのメンテナンスを行わなければならない、そして、バックアップサーバーにはアップグレードが難しいものもありました。その保守には費用もかかり、維持コストがかなりの金額に上っていました。それに対して、Acronis Cyber Protect Cloudはクラウドサービスで、メンテナンスはアクロニスが行うため、メンテナンスコストを大きく減らすことができました。またアクロニスは個人用も含めて広く使われているため、認知度も高く、企業も安心して利用することができます。さらにAcronis Cyber Protect Cloudのユーザーインターフェースは分かりやすいため、バックアップシステムを利用しようとする際のハードルが大きく下がりました。

Acronis Cyber Protect Cloudもサービス利用開始から年月が経過する中で、様々な機能が追加、拡充されてきています。その中で、GMOグローバルサイン・HDが特に期待し

ているのが自動アップデート機能です。クラウドサービスはアップデートしていかないと、最新機能が利用できなかったり、バグ対応などを行うことができません。サービス利用企業の中にはアップデートを実行していない場合もあるので、自動アップデート機能のサポートで、常にAcronis Cyber Protect Cloudが最新の状態に保たれ、必要な機能を使うことができるようになります。「プライベートクラウドでの利用実績を踏まえて、プライベートクラウド以外のサービスでもBCP対応の要望が多いので、Acronis Cyber Protect Cloudの利用を検討していきたいと考えています」とサービス運用部 クラウドホスティング開発室 藤永 勝久氏は抱負を語ります。

「ユーザーインターフェースが
よく作り込まれており、
ユーザーが使いやすいと
評価しています」

GMOグローバルサイン・
ホールディングス株式会社
サービス運用部
インフラSC SEG
岩下 徹氏

